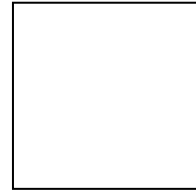


2006 年度秋学期憲法演習課題メモ

第 4 回 包括的基本権・法の下での平等

学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_



幸福追求権

人格的利益説 / 一般的行為自由説

競合的保障説 / 補充的保障説

新しい人権

プライバシーの権利

自己決定権

平等権 / 平等原則

形式的平等 / 実質的平等 / 絶対的平等 / 相対的平等

アファーマティブ・アクション

#### 第4回 予習のポイント

1. 新しい人権として考えられるものには、どのようなものがあるか。また、判例上、新しい人権として認められているものはあるか（**京都府学連事件**の最高裁判決参照）。
2. **尊属殺人事件**の最高裁判決を読み、「自己又ハ配偶者ノ直系尊属ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ処ス」と定める（平成7年改正前の）刑法200条の規定について、（1）最高裁判所の多数意見の考え方、（2）田中・小川・坂本・下村・色川・大隈の各裁判官の補足意見の考え方、（3）下田裁判官の反対意見の考え方について、それぞれまとめたうえで、その当否を論評せよ。
3. 違憲判決の効力について、論ぜよ。

- 4 . 最高裁判所が、ある法令の規定を違憲であると判示した場合、他の国家機関は、当該規定について、どのように取り扱うべきか。
  
- 5 . 刑法旧 200 条に対する最高裁判所の考え方と他の国家機関の考え方との間には、差異があるといえるか。
  
- 6 . 刑法 199 条の特別法として、尊属に対する殺人罪の法定刑を加重することは、立法政策として認めうる余地があるか。また、卑属の場合はどうか。
  
- 7 . ある大学のメディカルスクールでは、マイノリティ枠を設けて入学者選考を行っていた。また、別の大学のロースクールでは、マイノリティであることを考慮要因の一つとして扱ったうえで入学者選考を行っていた。アファーマティブ・アクションの制度設計として、いずれが合理的だと考えられるか。